

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

寺尾の教育目標『わくわく ぼかぼか きらきら』
 【知：わくわく】「よく遊び、自ら学ぶ」子を育てます。
 【徳体：ぼかぼか】心、体、命を大切に、自他ともに尊重する子を育てます。
 【公開：きらきら】：ひと・もの・ことと豊かにかかわり、地域や学校を大切にすることを育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

《持続可能な社会の創造に貢献しようとする力》
 《言語能力》

具体化した資質・能力

思いや考えを伝え合う力 思いや考えを表現する力 思考するための言葉の力
 感じたことを言葉にする力 相手の思いを受け止めて聞く力
 互いの考えの違いへの気づき 伝え合うことで自分の考えを深化させる力

中期取組目標

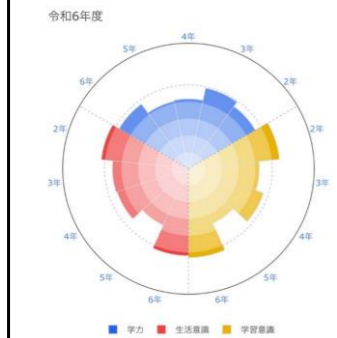
【わくわく】一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的な学びを充実させます。
 ・3年間を通して、子どもがわくわくしながら自ら学習に取り組むことができる授業づくりを推進します。
 ・自分の考えを発信したり、伝え合ったりしながら、豊かな言語能力を身につけることができるようになります。
 【ぼかぼか】自他の心や体を大切にすることを育てます。
 ・あたたかい気持ちで、相手の言葉を受け止めて聞いたり自分の思いや考えを発信したりする力を育てます。
 ・挨拶の大切さに気づき、進んで挨拶することができるようにします。
 ・安心安全に教育活動が行われるようにします。
 【きらきら】生涯にわたって生き生きと自分のよさを発揮する力を育てます。
 ・ひと・もの・ことと豊かにかかわり、協働して問題解決する力を育てます。
 ・地域と関わりながら、地域や学校を大切にすることを育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業づくり	①子どもがわくわくしながら自ら学ぶことができる単元を展開できるようにする。②子どもが思いや考えを表現し合うことができる力を教育活動全般で育成する。③本時のめあての確認と振り返りの時間を通して、学んだことの定着を図る。④様々な言語活動や読書活動を通して、子どもが言葉と向き合い、豊かな言語能力を身につけることができるようにする。
担当	学びづくり部会

学力向上に関わる本校の状況

- ★寺尾の子供たちの実態
 - 素直、仲がいい、一生懸命
 - △受け身、自信がない、失敗が怖い
 - チャレンジが怖い、経験不足、目立ちたくない、格好悪い
- ★寺尾の子供たちにつけたい力
 - 主体性＝目的意識
 - ・何のために・・・？
 - ・自分たちで考える
 - ・実行委員、リーダー経験
 - 表現する力＝相手意識
 - ・発表の場、交流の場
 - ・安心して発信できる
 - 自信up、コミュニケーション力up



今年度の目標

言語活動を通して一人ひとりが「本気」になれる国語科学習を通して、自分の思いや考えを表現できる力を育成する

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
 - 授業づくり・単元づくりを学ぶ
 - ・全体会で、授業づくり・単元づくりについて共通理解を図る。
 - 授業研究会①②
 - ・授業研究会を通して、「言葉による見方・考え方をはたらかせている姿」を積み重ねる。
 - ・「言語活動」を積み重ねることで、「言葉による見方・考え方をはたらかせている姿」を見出す。
- 下半期
 - 授業研究会③④
 - ・授業研究会を通して、「言葉による見方・考え方をはたらかせている姿」を積み重ねる。
 - ・「言語活動」を積み重ねることで、「言葉による見方・考え方をはたらかせている姿」を見出す。
 - ・国語科を通じた重点研1年目を集約し、成果と課題をまとめ次年度につなげる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①道徳科や人権週間を中心に、教育活動全体を通して豊かな心の育成を推進する。②誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができるよう、あたたかな雰囲気の中で、他者理解や自己理解を深めることができるようにする。③学校内外でのあいさつの取組を推進し、居心地のよい学級経営をめざす。
担当	道徳部・人権担当

豊かな心に関わる本校の状況

- ★寺尾の子どもたちの実態
 - 素直、優しい、まじめ
 - △自信がない、自分本位などところがある
- ★寺尾の子どもたちにつけたい力
 - 相手意識をもつ
 - 進んで挨拶ができる
 - 言葉の使い方に気を付ける
 - コミュニケーション能力

今年度の目標

相手意識をもって活動し、自他ともに尊重する心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

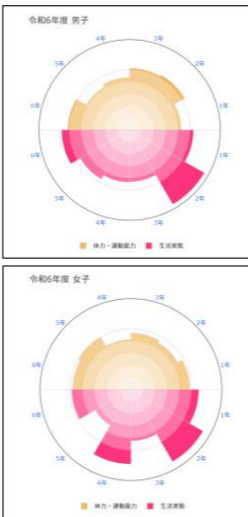
- 上半期
 - ICTなどを活用した一人一人に寄り添った「特別の教科道徳」の授業づくりをする。
 - ・タブレットを活用し、一人一人が考えを表明できる場の設定をする。
 - ・道徳的諸価値に基づきながら、自己の生き方について考えを深められる場の設定をする。
 - ・問題意識を持ち、自分自身との関わりで考えが深まる子どもが主体的になる授業づくりをする。
 - ・人権感覚の醸成につながる道徳教育の実践をする。
 - 相手意識をもち、他者の思いに寄り添う心情を育てる。
 - ・学年集会やペア学年等の異学年交流に取り組み、いろいろな人とかかわる体験をする。
 - ・児童会活動を中心に、人権週間の活用などによる人権感覚が育つような取り組みをする。
 - あいさつのできる子ども、正しい言葉づかいを意識できる子どもを育てる。
 - ・児童会活動などを通して意識づける。
 - ・道徳や学活などの授業の中で、言葉のつかい方を考える。
 - 安心して生活できる居場所づくりをする。
 - ・YPAセメントの分析、いじめアンケート等をもとに、それぞれの学級の長所や課題に応じたプログラムを実践する。
 - ・横浜子ども会議のテーマに基づき、全校で取り組める活動を取り入れる。
- 下半期
 - ICTなどを活用した一人一人に寄り添った「特別の教科道徳」の授業づくりをする。
 - ・タブレットを活用し、一人一人が考えを表明できる場の設定をする。
 - ・道徳的諸価値に基づきながら、自己の生き方について考えを深められる場の設定をする。
 - ・問題意識を持ち、自分自身との関わりで考えが深まる子どもが主体的になる授業づくりをする。
 - ・人権感覚の醸成につながる道徳教育の実践をする。
 - 相手意識をもち、他者の思いに寄り添う心情を育てる。
 - ・学年集会やペア学年等の異学年交流に取り組み、いろいろな人とかかわる体験をする。
 - ・児童会活動を中心に、人権週間の活用などによる人権感覚が育つような取り組みをする。
 - あいさつのできる子ども、正しい言葉づかいを意識できる子どもを育てる。
 - ・児童会活動などを通して意識づける。
 - ・道徳や学活などの授業の中で、言葉のつかい方を考える。
 - 安心して生活できる居場所づくりをする。
 - ・YPAセメントの分析、いじめアンケート等をもとに、それぞれの学級の長所や課題に応じたプログラムを実践する。
 - ・横浜子ども会議のテーマに基づき、全校で取り組める活動を取り入れる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康の保持・増進をめざし、学校保健委員会等を通して子どもが自ら自分の生活を振り返り、改善していこうとする意欲を育てる。②委員会等で子どもの意見を取り入れながら、体を動かす楽しさを味わう機会を設定し、体力の向上につなげる。③給食を中心とした学校教育活動全体で食育を実践し、食の大切さを自ら考え実践していくことができる力を育成する。
担当	体育部・食育部・保健部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体にかかわる児童生徒の実態



(2)これまでの学校の取組状況
 ・委員会活動や体育科学習を中心に運動に親しめるように支援した。
 ・学校保健委員会や保健だより、ぼくぼくだよりを通して養護教諭や栄養教諭から情報を発信することで、家庭との連携を回ってきた。

今年度の目標

児童が健康や食の重要性への理解を深め、健康な生活を営むための基本的な生活習慣を一人ひとりが見直ししたり、児童の体力向上を通して健康的な生活を実践する態度を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
 - ①健康の保持・増進をめざし、学校保健委員会等を通して子どもが自ら自分の生活を振り返り、改善していこうとする意欲を育てる。
 - 保健だよりの充実。養護教諭からの情報発信を行い、基本的な生活習慣を整えられるよう情報提供をし、子ども達の意識を高めるとともに、実践している児童を励まし、賞賛することで自己肯定感を高められるよう努める。
 - 学校保健委員会では「姿勢」に取り組み、姿勢が健康に与える影響について知ったり、学習中や日常生活での自らの姿勢を振り返り直すことで、自分の生活の仕方や生活環境を改善しようとする意欲を育てる。
 - ②委員会等で子どもの意見を取り入れながら、体を動かす楽しさを味わう機会を設定し、体力の向上につなげる。
 - スポーツ委員会や体育部の取り組みを通して、児童が体を動かす楽しさを味わえるような取り組みを行い、体力の向上につなげられるようにする。
 - 晴れている日は、外遊びを推奨して教師が児童に声をかけ校庭へできるだけ出るように支援する。
 - ③給食を中心とした学校教育活動全体で食育を実践し、食の大切さを自ら考え実践していくことができる力を育成する。
 - 給食委員会や食育部の取り組みを通して、児童が食に関心をもち、バランスを考えながら食べたり、苦手な食材にも挑戦したりできるよう意欲を高め、自ら健全な食生活を実践しようとするようにする。
- 下半期
 - 上記(上半期)の内容は継続的に取り組む。
 - 運動委員会を中心に体力向上を図る取り組みを計画・提案し校内で実践する。
 - 運動委員会を中心に、運動会行事を活性化させる。
 - 給食委員会を中心に、給食習慣を行い「食」への関心を高める。
 - 一年間を振り返り、子どもの様子や成長を保護者、地域に発信し、学校、家庭、地域で子どもの体の育成を考える。
 - 来年度に向けて、子どもの健やかな体の育成のための取り組みを検討する。